

## 2020年度 総合スケジュール(第11週まで)

週	講義名	講師名	内容
第1週	原稿の「書き方」実践(全1回)	東 多江子	句点と読点、カッコ(「、『、[、・、…、… 文章を書く上で使用する記号には絶対ルールとローカルルールがあります。「落とされたい書き方」「下手だと思われない書き方」を実践指導します。
第2週	創作脳の鍛え方(全1回)	さらだ たまこ	「小説」はまず自分を書くことから始まる。自分史/自叙伝と私小説の違いとは。創作する「筋肉」をどう鍛えていくか。小説を書くための創作ノート&創作の引き出しの作り方。
第3週	日本語表現の基礎①(全2回)	久野 麗	ことばのクイズを通して、よく使う日本語を見直し、真の意味・用法・機能を考える。「こんにちは」「さっそく」「ご飯を炊く」…などの平易な言葉にも難題は含まれる。短文作り・課題もあり。
第4週	文学賞に応募しよう(全1回)	鈴木 収春	プロ作家になる方法を、ベストセラーを出版してきた編集者の講師の体験をもとに紹介。200種類以上ある文学賞の種類、どこをどう目指すべきか。受賞のためのテクニック、など。
第5週	文章のセンス①(全2回)	藤井 青銅	センスは個性から生まれます。エッセイでも小説でも脚本でも、「二つの口」を意識することで個性的な文章になります。まずは「第一の口」。グループ制で、項目出しレッスン。
第6週	読まれる作品を書くために①(全2回)	香取 俊介	「プロ作家になる」という気構えを持たないと良い作品はできない。より多くの人たちを感動させる作品はどうすれば書けるか。作品分析と共に、日頃の実践等々を学ぶ。
第7週	プロ作家のような文章の作り方①(全2回)	亜坂 たかみ	小説をプロのように書くには？ 辞書や資料を使い、文章が上手く見えるコツを伝授します。
第8週	文章のセンス②(全2回)	藤井 青銅	個性を生む「第二の口」を意識した実践編。演習として、原稿用紙2枚程度のものを書いてみます。当日書いたものを、簡単に講評。講評例を元に、次回までに演習作を書く。
第9週	読まれる作品を書くために②(全2回)	香取 俊介	人や組織への取材の心得。作家の視点で「見る」「聞く」「読む」。いかに発想し、いかに構成するか。「創る」とは削ること。プロとアマの違い。
第10週	プロ作家のような文章の作り方②(全2回)	亜坂 たかみ	自己紹介、本(小説)ができるまでの出版社とのやり取りを簡単にご説明。上手な文章を作るための方法やコツを具体的にお話し、実際に使っている辞書や資料本をご紹介します。
第11週	日本語表現の基礎②(全2回)	久野 麗	初回同様、ことばのクイズを行いながら、「日本語らしい表現」の特徴・機能を学ぶ。「～んです(のだ)」「雨に降られた」「お茶が入った」など。役立つ辞書・書籍も紹介。

## 東京作家大学1年生 2019年度 一般講義一覧(全36回)

No.	講 義	講 師	回数	課 題
1	文章のセンス	藤井青銅(放送作家/エッセイスト)	3	「自分なりの法則を考える」
2	日本語表現の基礎	久野麗(放送作家/日本語講師)	2	「わたしが書きたいもの」
3	読まれる作品を書くために	香取俊介(脚本家/小説家)	3	「人生で最も嬉しかったこと」「私はこういう作品を書きたい」
4	文学賞に応募しよう	松本茂樹(小説家)	1	
5	創作脳の鍛え方	さらだたまこ(放送作家/エッセイスト)	1	
6	効果的な会話の書き方	東多江子(脚本家/小説家)	2	「会話を生かした喧嘩の画面を書く」
7	エッセイの方法論	島敏光(エッセイスト/司会者)	2	「花火」
8	インターネットに書く	高橋秀樹(放送作家)	2	「わたしのテレビ番組評」
9	物語の「構成」とは	富川元文(脚本家)	2	140文字の小説を書く テーマ「戀ふ」「海」
10	魅力ある悪役を書いてみよう	花輪如一(小説家/放送作家)	2	「主人公が悪役に苦しめられる場面」
11	児童向け作品を書いてみよう	山野辺一記(脚本家)	2	「小学生時代に驚いたこと」
12	エンタメの手法はすべての創作に有効である	宮下隼一(脚本家/小説家)	2	「マイ・フェバリット(私のお気に入り)」「なくてななくせ」
13	ネットに投稿して作家になる方法	鈴木収春(編集者)	1	
14	脚本を書いてみよう	井出真理(脚本家)	3	「男女の駅での別れのシーン」
15	時代小説・エンタテインメント小説の心得	松本茂樹(小説家)	2	「道」
16	プロ作家のような文章の作り方	亜阪たかみ(小説家)	1	
17	見て、聞いて、歩いて、調べて書く技術	高瀬毅(ジャーナリスト)	2	「私の好きな街」
18	音声ドラマのテクニックを学ぼう	北阪昌人(脚本家)	3	「同窓会での告白」「レストランでの会話」